



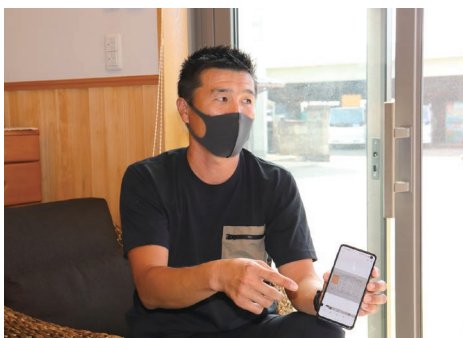
今は、農業に興味のある方を研修生として受け入れて、一緒に働きながら栽培から経営まで指導をしています。今までに3名の研修生が独立をして、その内2名が市内で農業を始めています。最初は、独立するにしても「土地もない、機械もない、住居もない」という状態でしたが、農協さんや市役所、地域の方と連携することで独立することができました。これからも、独立を目指して研修に来ている方たちを支援し、次世代につないでいきたいと思っています。

### 議会

農業のやりがい（楽しさ、喜び、大変なことなど）を教えてください。

### 菊地氏

初めの頃は、農協さんや市場に出荷するのが主なやり方でしたが、消費者さんの声を聞きながら仕事をすることにやりがいを感じて、27歳の時に自分で販路を開拓するようになりました。一年一年信用を積み重ねて、十年くらい試行錯誤をして今があります。なかなか気付かないかもしれませんが、茨城県南で農業をやることはとても恵まれていて、栽培に適した良い土地もありますし、50キロメートル圏内に商圏もあります。そこに気が付くと、農業のやりがいはいはもつと広がるはずで。販売も視野に入れて攻めの農業をしていくことは、需要と供給の情報を密に把握して、時代に合わせて変化できるので楽しいです。この辺りは若い後継者の方も多く、切磋琢磨しながら色々なことに挑戦しています。眠れない



### 議会

ぐら大変なこともあります。苦勞を知らないと楽しさは感じられないですし、良い時もあれば悪い時もあるという農業の大変さを経験していくと、十年後には楽しい農業が見えてくると思っています。

どんな農業を目指していますか。

### 菊地氏

昔から農業には「きつい、汚い、危険」という3Kと呼ばれるイメージがあって、そのイメージを変えたいと思っています。今はデジタル化が進んでいて、私も実際にスマートフォンを使って作業の効率化を図っています。第一線で農業をしている私たちが、明るく楽しく生きがいをもって働いている姿を見せて、子どもたちにとっても魅力のある職業となるように、「未来ある楽しい農業」をしていきたいです。

（令和3年10月インタビュー）



ホームページ  
QRコード



※写真撮影時のみマスクを外していただきました。市民インタビューは感染対策を徹底しております。